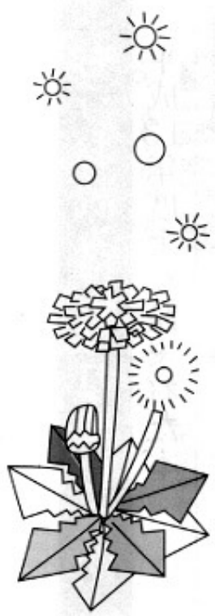
げられると思います。その中のひとつはJ・K・ローリング作の「ハリー・ポッター」シリーズです。児童書でありながら、子どもから大人まで幅広い年齢層の読者を魅了する本です。『ハリー・ポッターと賢者の石』は、一時は本棚に並んでいましたが、昨年の10月に映画化されたと同時にカウンターで「ハリー・ポッターありますか?」と聞かれることが多くなりました。こちらの本は西東京市図書館に41冊ありますが、まだなお100人以上の方にお待ちいただいています。

貸し出し回数は1000回以上にのぼっています。他に『ハリー・ポッターと秘密の部屋』『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』がありますが、いずれも3月10日現在『ハリー・ポッターと秘密の部屋』は80人以上の方、『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』は180人以上の方が順番待ちという現状です。それぞれ30冊近く所蔵がありますが、お手元に本をお届けするまでに3、4カ月かかってしまいます。

低学年読み物では、原ゆたか作の「かいけつゾロリ」のシリーズがよく読まれたようです。現在、シリーズは30巻にのぼり、最新刊は『かいけつゾロリあついぜ!ラーメンたいけつ』。いずれのシリーズも西東京市図書館で10冊以上購入していますが、本棚に並んでいることはあまりないようです。よく子どもたちに「ゾロリの本ありますか?」と聞かれるのですが、本棚に案内しても本が一冊もないことが多く、子どもたちをがっかりさせてしまうことがあり残念に思います。

絵本では、中川李枝子文・山脇百合子絵の「ぐりとぐら」シリーズです。「ぐりとぐら」は、30年以上も前に出版されたのにも関わらず根強い人気です。その時に読んでいた子どもたちは、今はお父さん・お母さんになっています。あの時の気持ちが忘れられなくて、子どもに読み聞かせをしているのかもしれません。このほど今年の2月に『ぐりとぐらのおおそうじ』、手のひらサイズの『ぐりとぐらのあいうえお』が出版され、西東京市図書館でも3月10日現在10冊以上注文しています。

現在の児童書は、子どものために書かれたとはいえ、子どもはもちろん大人も、読んでいる時は主人公と一緒に童話の世界を歩くことができること、また、童心にかえることができることが人気の秘密なのではないでしょうか。ぜひ、児童書を手にとってください。主人公の魔法にかかってしまうかもしれません。



図書館協議会から

平成13年度 第4回定例会報告

1月24日(木)午後3時から5時20分まで、田無公民館3階会議室で開催されました。

会長から年頭の挨拶が行われた後、中央図書館長から諸報告が行われました。

報告

1、12月市議会定例会から「都立図書館再編成計画」に関する意見を求める陳情について

2、作文コンクールの選考審査結果について

3、市内図書館の特別休館について

4、14年度の図書館関連予算作成作業の進行状況について

右の諸報告に関連して、委員側より活発な質疑・意見の開陳が行われて、今回は予定時間を超過しました。

協議会は公開で、今回の傍聴者は3名でした。

次回は、2月25日(月)午後3時から田無公民館3階会議室で行う予定です。

(報告／村田　眞昭)

平成13年度 第1回臨時会報告

2月25日(月)午後3時から5時まで、田無公民館2階会議室で開かれました。

会長のあいさつの後、館長からの諸報告があり、続いて議案　児童図書の配架方式について、児童書担当の職員3人(芝久保・柳沢・中央)による現状説明の後、話し合いました。

〈館長の報告〉

●コンピュータ統合作業の進捗状況について

2月11日から2月28日まで休館し、コンピュータ統合作業が終わり3月1日より新しいシステムを導入しました。コンピュータ端末は全体で99台となり、利用者用端末機は以前より10台増えました。6月からはインターネットによる蔵書検索と予約が可能となるようにすすめます。

議題

●児童図書の配架方式について

旧田無・保谷両図書館で児童書配架方式が異なり、配架に関する疑問の声がありました。今回は、旧田無市と保谷市の合併経緯により、絵本と読み物についてのそれぞれの配架方式の違いから

○配架方式

○これまでの経緯

○メリット・デメリット

○結論

以上を報告いただき、それについて質

疑応答が行われました。

他の地域の公立図書館との比較、配架用図書記号があると便利等の意見が出ました。まだ合併から短いので、職員の配属転換後、旧両館の違いの経験を生かして意見交換し、各館独自の個性があるもの、市としての配架方式を改めて探っていく事になりました。約一年を目途に、西東京市方式をまとめるよう、図書館に要望しました。

協議会は公開で傍聴1名、次回は5月23日(木)午後3時より田無公民館で行います。

(報告／日比野　綾子)

調べ物、お手伝いします
レファレンス・サービスをご利用ください。

■レファレンス・サービスとは?

図書館では、調査・研究に必要な資料(レファレンス・ブック)を揃え利用者が自由に探せるように、レファレンス・コーナーに配置してします。

適切な資料が見当たらないときや、お急ぎのときは、職員が資料をお探しするお手伝いをしていますが、これをレファレンス・サービスと呼んでいます。

カウンターや書棚を整理している職員に、お気軽にお声をおかけください。

■レファレンス・ブックとは?

調べ物に必要な本のことで、「参考図書」とも言います。百科事典、辞書、各種の辞典、年鑑、統計、新聞縮刷版、法令集などです。

これらの他に、実際の調査では、調べたい事柄の主題(内容)の書架にある本も必要な情報が詳しくかかれていることが多いので有効です。

■どんな質問がありますか?

★「○○○」という書名の本
★「○○○」という著者の本
★「○○○」について知りたい
★「○○○」に関する本

というように、書名・著者名から本をお探ししたり、書名がわからなくても調べたい事柄についてお調べしています。たとえば、時事的なこと、歴史的なこと、人物・団体に関すること、統計・法令に関すること、人名・地名の読み方、言葉の意味、などです。

■事例からご紹介します

その1

「もってのほか」という菊の名前の由来

薄紫色のきれいな菊の花を持参した方からの質問です。友人から「もってのほか」という俗称で山形地方でよく生産されている食用菊との事を聞き、その名前のいわれに興味を持ったということでした。職員は、まず百科事典で「ショクヨウギク」の項目で調べると「正式名は、エンメイラク(延命楽)」であることがわかりました。しかし、由来に関しては書かれていなかったので、『日本の名産事典』(東洋経済新報社刊)の山形県で調べてみると、「味がよいため嫁にくわせるのはもってのほか」という記述がありました。『朝日百科植物の世界1』(朝日新聞社刊)にも同じような説明がありました。

その2

「作家水上勉が、養子に出した息子、窪島誠一郎と再会した時に公表した文章」

所蔵の小説や水上の年譜から作品リストなどにあたり内容を調査しましたが、見つかりません。利用者に中間報告をすると、昔読んだ記憶では雑誌だったかもしれないということ。そこで、『大宅壮一雑誌記事索引』を調べました。その結果、「週刊朝日1977年8月26日号」に「34年ぶり父子再会をめぐって、わが感想」という記事を見つけました。また、「週刊朝日1977年8月19日号」に「遅延した水上勉父子の小説より奇々三十余年」という関連記事も見つかりました。古い雑誌なので、西東京市図書館に所蔵がなかったのですが、都立多摩図書館より借用した雑誌を貸し出しました。

その3

献血が可能か否かを判定する基準について調べたい

百科事典で「献血」を調査。採血及び供血あっせん業取締法」という法律名を確認しました。「現行日本法規」の索引から調べると、「基本行政通達　38巻3951」に、同法の別表として新採血基準がありました。より詳しい情報として、「採血時における問診の強化等について」に、より具体的な問診項目が載っていました。

その4

真珠湾攻撃を暗号で命令した人物について知りたい。「フシタ」か「フジタ」空将という名前らしい。

昭和史の書棚にある多くの資料から、「昭和―二万日の全記録―第6巻」(講談社刊)、「淵田美津雄中佐」という記述を見つけました。また、「図説秘話でよむ太平洋戦争(真珠湾奇襲からミッドウェー海戦へ)」(河出書房新社刊)でも同様でした。「新潮日本人名辞典」(新潮社刊)より、(フチダミツオ)という読み方と経歴などを確認しました。

■情報の宝庫の活用を!

この他にも、多くの事例を記録して、コンピュータに入力・保存し、今後の活用に生かし、より迅速で的確な回答ができるようにしています。

利用者の主体的な調査・研究にお応えする機能が図書館の重要な役割です。

また、皆様のお役に立つことで、職員はさらに経験を積み、より高度なサービスの提供へとつながります。

情報の宝庫である図書館を、レファレンス・サービスを通して、大いに利用してください。